

## 第1回 学校運営協議会記録

### 1. 学校長挨拶

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が臨時休業となる事態があったが、無事、第1回学校運営協議会が開催できた。学校は5月11日から、週1回の分散登校。翌週、2回の分散登校。6月から毎日全員が3時間ずつ登校し、6月15日から全学年が朝から登校することができ、ようやく学校がスタートした。

しかし、大阪の感染拡大は安心できない状にあり、新規感染者は、多い時には6名、4名。今日は0名。

学校経営計画には細かく記載していないが、運営面で工夫し、「安心して通える学校づくり」を行っていききたい。

### 2. 委員委嘱

A:元大学職員、元府立高校校長、学識経験者。新たに委嘱。

B:大学職員。今年度新たに委嘱。

C:障がい者福祉サービスの施設長。

D:松原市内小学校校長。

E:松原市内中学校校長。今年度新たに委嘱。

F:PTA会長。今年度新たに委嘱。

### 3. 委員自己紹介 A、B氏は欠席。

### 4. 会長選出 A氏

### 5. 令和2年度 学校経営計画

1月に承認していただいたものに、数値を年度末に書き加えた。育成目標は4年目のため定着させたい。遅刻・欠席することなく出席がきちんとできる状況にしたい。一方、不安を感じる生徒のケアをしたい。第2波、3波が来ることを踏まえて修正したい。

「2」の勉強面については計画にはないが、双方向のウェブ上の授業ができるように整備をすることを目標とする。

登校できる前提で、図書ホールの活用方法を含めてアクティブラーニングを研究したい。

「3」人とのつながりを育成について。コミュニケーション力が課題。いつもなら、小学生との交流をしていた。高校生にとっても良かったが、6月現在未だに再開できていない。2・3学期にできるようになればと思っている。ビオトープそのものは、いつでも受け入れOK。

「4」働き方改革・リーダーの育成について。テレワークを初めて経験した。新しい働き方だが、それだけではやっていけない。現状を踏まえてやっていきたい。

前年度末の内容と変えたところは、韓国の高校との交流。昨年度末に、現地交流は難しいと判断した。先方が来日するかどうかは未定だが、この状況では、厳しいと思う。ビデオレターやインターネットを通じた交流などの方法も検討している。

### 6. 今年度の目標(分掌等)

広報、1年、2年、3年、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の各主任が現状と今年度の目標について説明。

### 7. 協議及びまとめ

学校経営計画について

協議員:今年度162名の入学。来年度も何とかしたいと思うが、コロナ下でやりにくい。小学校にとっては、平野高校はかけがえのない存在。毎年、低学年が生活科の授業でお世話になっている。ビオトープで高校生の皆さんと交流し、子どもたちも喜んでいるため、できるなら、ずっと隣に平高があってほしい。

懲戒数が少ないのは良いこと。小学校では、子どもがなかなか学校になじめず、トラブルも多い現状。少人数だからこそ、きめの細かい指導ができていないのか。

評議員：今年度受験する中学生の数について、目標が記されていないが？

校長：記載はない。この計画は今いる生徒に対する計画を書くものであるため。

補足すると、今年の中学校訪問は例年とは違う形で行いたい。近いところに行ってもらうのではなく、担当を決めて、状況をつかめるような、何回か回れるように、何が何でも学校を残していけるようにしたい。「地元で高校に行かせたい」という中学校の先生方の思いをしっかりと受け止めたい。まだ、中学校の訪問ができる状況でない。説明会にどんどん出ていくつもり。管理職・首席中心に一校一人出ていくぐらいやってもよいと思っている。中学校の進路指導の方法も、コロナ下で変わるはず。その中へ入っていききたい。

評議員：2年連続定員割れは、学校として大きな課題。中学校の校長としての率直な意見は？

評議員：松原市内の複数で勤務経験あるが、卒業生がお世話になった。平野高校にはよく見てもらっている。かつては荒れていた時代もあって、授業を分けて行っていたこともあった。

ただ、今の状況。厳しいのは確か。毎年開いてもらっている中高連絡会はありがたい。それ以外にも、不登校気味の子の情報がほしい。一人も欠けることなく卒業できるように中学校でもサポートしたい。

毎朝、中学校の校門前に立っている。自転車で元気に通っていく様子を見ている。ぜひともこれから先一緒であってほしい。

訪問・体験講座について、移動のリスク・密を避けることを考えると依頼をかけにくい状況。来てもらって行う授業説明会を広げたい。

保護者を通じて子どもに伝わるようにしたい。口コミで「いい学校だ」というのが伝わり、「行かせたい」という思いが広がっていくようにしたい。

評議員：平野高校のイメージは？

評議員：進学した理由として、「定員割れそうだから」が半分、「行けそうだから」が半分、「魅力を感じて」というのはさらに半々。入学してから、学校の良さを浸透させていってくれたらと思う。

評議員：生徒像が今どうなっているのか？やんちゃなイメージからから、不登校へという話もあった。進学・就職の割合なども教えてほしい。

教員：就職4割。初めから「就職」と決めている生徒も。残りの6割のうち半分は専門学校、半分为大学・短大進学。

教員：7～8年前は懲戒、喧嘩、暴力、喫煙…。最近是对人関係・SNSトラブルが懲戒にあがる。いじめはあまりない。その前に喧嘩になっているのか。

中学時に不登校であった生徒も多く入学するようになった。その中で、前向きに切り替えてきている生徒が非常に多い印象。

## 重点課題について

評議員：1・2・3学年に絞って何かあれば。

評議員：子どもが1年と3年に在籍している。さらに、姉も平野を卒業して現在専門学校生。姉が「平野高校に行きたい」と言ってから、下の子も続くようになった。いい学校だと思う。選んだ理由を考えると、「家が近いこと」「友達も、恵我幼稚園、恵我小学校、四中と連携できていること」「恵我幼稚園時代の交流もあったこと」「小さい子にやさしい生徒像」など。最後の点は、生徒も「そう見られたい」思いある。

評議員：転退学の例は「不登校」が多い？

教員：2年生は、不登校も一部ある。その他に学校生活になじめず欠時オーバーになる例もある。

校長：高校無償化は、私学の通信への転学を躊躇させなくなってきている。私学の方は選択肢が多い。「単位をお金で買う」と明確に言う保護者もいるぐらい。「同じ年代で卒業させたい」という思いもある。

## 分掌について

校長:大学・短大への進学が厳しい。特に今年の3年生は制度変更により振り回された。英語4技能民間試験や国語数学の文章表記問題など。また、大学入試の名前が変わる。「指定校」が「総合型選抜」など。9月、10月には入試が始まるというのに未だ要項が示されておらず不安に思う受験生が多い。生徒の不安を取り除けるよう、進路指導部と相談しながら進めたい。6月の日本学生支援機構の手続きが遅れている。

教頭:生徒の登校について、交通ルールのご指摘を頂くことがあるが、近隣の小・中学校から見て気になることはあるか。

評議員:二人乗りやスマホを聞きながら自転車運転している様子はたまに見かける。

評議員:特に聞いていない。

教頭:今後、マナー、モラル、ルールに関して、ご指摘があれば連絡ください。

## 8. まとめ・閉会の辞

次回は10月14日(水)予定です。